

世界健康首都会議 宣言文

超高齢社会において、身体と心の健康は、単に個人の問題だけではなく社会の問題でもあること、さらにそれを維持するためには、疾病予防の努力が不可欠です。個人の意識改革を進めるとともに、社会インフラを整え、企業と学術機関の叡智を形にする、産業化に向けての強力な営みが必要です。

21世紀に生きる私たちの健康は、自立した生活のもとに、社会と積極的にかかわりを持ち、社会の中で自らの役割を実感して生きていくことにより、維持されるものであると考えます。

超高齢社会に生きる市民全てが尊厳をもって生き、全員が社会の資産であり、市民一人ひとりの「いのち」と「暮らし」を大切にする、という認識を共有する社会こそが、世界の目指す「健康寿命延伸都市」であり、それは同時に世界健康首都の姿でもあります。

私たちは、世界健康首都会議を通じて以下の7項目を共有し、21世紀の健康のあり方を世界に向けて松本から宣言します。

- 1 健康は、活力ある超高齢社会の源です。
- 2 健康は、個人の問題だけではなく、社会の問題でもあります。
- 3 健康は、疾病予防の努力によって支えられます。
- 4 健康は、快適な生活空間と環境に配慮したまちづくりによって支えられます。
- 5 健康には、自立した生活、社会との積極的なかかわり、さらに、社会の中で自らの役割を実感して生きていくことが求められます。
- 6 健康には、産業化による持続可能な社会システムの確立が不可欠です。
- 7 健康には、市民、企業、学術機関、行政の相互連携が大切です。

2011年12月9日

世界健康首都会議
松本市長 菅谷 昭